

シグマ研究委員会ガンマ線生成核データ W. G.

昭和60年度第4回会合議事録

1. 日 時 昭和60年9月13日(金) 13:30~17:30
2. 場 所 原研本部第5会議室
3. 出席者 浅見, 五十嵐, 水本(原研), 肥田, 山室(NAIG),
八谷(三井造船), 井頭, 播磨, 北沢(東工大)
4. 配布資料
 - (1) pre-equilibrium process について (direct reaction との相互関係を中心に) (井頭)
 - (2) 「GNASH」における pre-equilibrium process の計算 (山室)
 - (3) GNASH計算 (水本)
5. 一般報告
 - (1) 1985年核データ研究会及びポスター・セッションの案。(五十嵐)
 - (2) 原研物理部で10月から3ヶ月間インドネシア及び中国から研究者を受入れ, 夫々, 核データセンター及び核2で仕事をしてもらうとのこと。(五十嵐)
 - (3) 原子力学会分科会で「核データ将来像」に関するパネルディスカッションを行うこと。(五十嵐)
 - (4) 特殊目的核データ・ファイル作製に関するアンケートに対する協力要請。(浅見)
6. 議 事
 - (1) GNASHによる pre-equilibrium process (PEP) の計算に関連し井頭氏に PEP 理論のサーベイをしてもらった。その結果, 現在の PEP 理論は連続スペクトルを表現する理論であること, 中性子反応において $n_0 = 3$ と取る限り direct process は PEP に含まれるなどの説明があった。これに対し,

PEP に集団励起過程を加算することは重複にならないとの意見があった。

- (2) 山室氏から、GNASH による PEP 計算の場合、continuum におけるガンマ遷移を含める時規格化がまずいという指摘があった。また、直接過程を含める時の規格化も問題があることが述べられた。pick-up process 及び knock-on process を計算する subroutine PICNOC は検討を要す。